

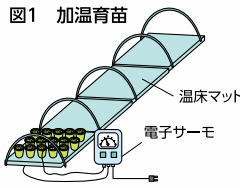


小玉スイカ（ウリ科スイカ属）

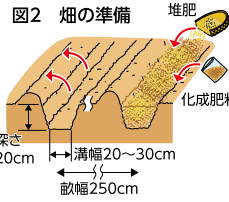
スイカはアフリカ南部カラハリ砂漠が原産のため、高温、強い光と乾燥でおいしいものが取れます。中間地では温床内で3、4月に種をまき、7、8月に収穫します。生育と病気に強い接ぎ木苗が市販されており、利用すると便利です。

【品種】家庭菜園では重さ2、3kg程度の小玉スイカがお薦めです。赤肉球形では「姫甘泉」（丸種）、「紅しずく」（タキイ種苗）、「紅こだま」（サカタのタネ）など、赤肉楕円（だえん）形では「姫まくら」（丸種）、「マダーボール」（ヴィルモランみかど）などがあります。

【種まき】温床マットなどで25〜30度に加熱したトンネル内（図1）で培養土を詰めた9cmポリポットに3粒ずつ種をまきます。本葉が出始めた頃には夜温15〜20度に下げます。その後、良い苗を残し間引いて1本にし、本葉4、5枚の苗にまで育てます。



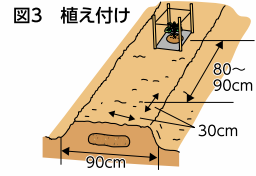
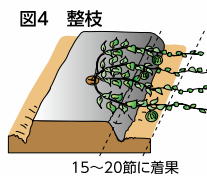
【畑の準備】植え付け2週間前までに1平方m当たり100g程度の苦土石灰を散布し、土とよく混ぜておきます。次に、畝幅250cm、深さ20cmの溝を掘り、この溝1平方m当たり化成肥料（NPK各成分10%）100gと堆肥2kgを施します。この溝を中心に土を戻して幅90cm、高さ10cm程度のベッド（栽培床）を作り（図2）、黒マルチを張ります。



【植え付けと保温】風のない暖かい日に、深植えにならないよう株間80〜90cmに植え付けます。植え付け後は保温と風よけのために、ビニールで30cm角の「あんどん」やドーム状のホットキャップをかぶせま

す（図3）。あんどんの中が茎葉でいっぱいになったら取り外します。

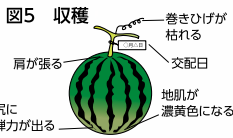
【整枝・敷きわら・追肥】本葉5、6枚で摘心し、強い子づる4本を伸ばします。つるが伸びていく場所にわらやつるが絡むシートを敷き、つるを片方に振り向けて重ならないように配置します（図4）。つるの長さが50cm程度と果実が卵大程度のとき、1株当たり化成肥料50g程度をつる先に散布します。



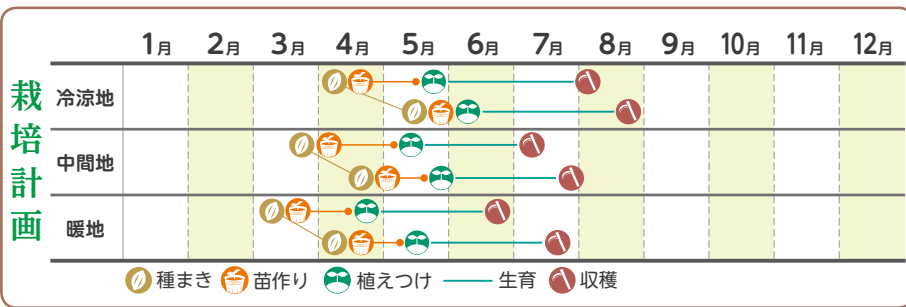
【人工交配・摘果】強い子づる3本に着果させるため、親づるから数えて15〜20節目の雌花全てに交配します。早朝（9時ごろまで）に雄花を切り取り、花粉を雌花の柱頭になすり付けます。このとき、交配した雌花の近くに交配日を記したラベルを付け、収穫適期の目印にします。果実がこぶし大のときに変形果を摘果し、各つる1果（計3果）取りを原則とします。

【病害虫の防除】茎葉が日中しおれ、茎が割れるつる割れ病には、接ぎ木苗を使います。うどんこ病、アブラムシ、ハダニなどが発生したら登録農薬で防除します。

【収穫】小玉スイカは開花後（交配後）35〜40日で熟してきます。収穫適期は、①巻きひげが枯れている ②果実の肩が張り光沢が出ている ③果実の尻の部分がへこみ、指で押すと弾力を感じる ④地面に付く果皮が濃黄色となるなどでも判断できます（図5）。



※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



小玉スイカは、他の種類のスイカの品種に比べて育てやすく、初心者におすすめです。家庭用冷蔵庫で冷やしやすいため、これから品種改良されました。太玉スイカに比べて甘さも均一で、皮も薄く生ゴミも削減できるため、現代用のスイカとして人気があります。

◆土づくり

スイカは酸性土壌が苦手なので畑栽培の場合は、植え付け前に土を耕す準備が必要です。土の酸度は、市販の酸度測定液などを使うと安価で簡単に調べることができます。

プランター栽培は野菜用の培養土を使用しましょう。

◆水やり

スイカは水分過多の状態が苦手です。プランター栽培なら、雨に濡れない場所に移動させる、地植えならば雨に濡れないようにビニールをかけるなどの対策が必要です。

ビニールなどの対策で中が蒸れてしまつと葉の病気になるので、この点も注意しましょう。

JAグリーン津店が
小玉スイカ
栽培のポイント
教えます！

JAグリーン津店
店長 松井 茂樹